

第10回愛南町海業推進会議 議事概要

開催日時：令和8年3月16日（月曜日）14時30分から15時20分

開催場所：愛南町役場本庁3階 大会議室

参加者：大石委員、大野委員、栗林委員、後藤委員、秦泉寺委員、関根委員*、高橋委員、田中委員、永元委員、濱本委員、深堀委員、藤田委員、前田委員*、向田委員、森委員、山本委員

事務局（清水貴、尾崎、広瀬、中村、小山、西村）

一般社団法人Umidas 清水陽

漁港漁場漁村総合研究所 伊藤、高階

水産庁計画・海業政策課 海業振興室 加藤*

愛媛県漁港課 伊藤、近藤

愛媛県愛南水産課 高島、荒木

（*はオンライン参加）

1. 情報共有（第9回会議以降の報告）

- ・事務局より、第9回会議及び運営委員会3回分（9/30、12/22、2/26）の議論内容を報告。
- ・「愛南町きらめき海道プロジェクト（案）」の策定プロセスと、愛南町SDGs水産環境未来都市構想の見直し状況を共有。

2. グランドデザインの進捗等について

（1）各プロジェクトの進捗等について

○インバウンド！AINANツアー生成プロジェクト（高橋委員）

成果：国際環境認証「グリーンフィンズ」を取得。地元食材を活用したメニュー開発などの提供体制も整備。

現状：英語案内が不十分な中でも年間約20件の訪日予約があるが、言語対応可能な受入人材の不足が喫緊の課題。

展望：短期的な集客に加え、長期的な「未来のプレーヤー」育成のため、既に活躍している民間会社、移住者、町民など多角的にアプローチしていく必要がある。また、学校教育や他分野（山の事業者等）との連携を強化する。

<議論>

・海底熟成ワインのプロジェクトについて、現在の進捗状況や具体的なイメージはどうなっているか。今治市の大三島で成功しているワイナリープロジェクトのような地域間連携も面白いのではないか。

→既にふるさと納税の返礼品として登録済みで、注文も入っている。試飲いただいた際にも「美味しい」と好評だった。また、町内に落ちている梅を活用した梅酒づくりの構想も酒造会社と進めている。

・インバウンド対応において、喫緊の課題である「受入れ担当者の不足」と、長期的な「未来のプレーヤー育成」のどちらを優先すべきか。

→短期的には旅行会社を通じた販売を優先するが、同時に愛南町の歴史やストーリーを売り物にするため、教育現場等と連携した人材育成も並行して行いたい。

○愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクト（清水主幹）

現状：令和7年度に実施したモニターツアーのアンケート結果を分析中（漁村総研）。

展望：令和8年度に更なる実証を行い、単なるモニター企画から「ツアー商品の販売」へと実装段階に移行させる。

○愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト（広瀬係長）

現状：令和8年2月6日付で33.8トンのJブルークレジット認証を取得。

課題・対策：販売体制の強化（営業力の不足）が課題。支援企業や愛媛県ゼロカーボン推進課との連携により、買取先の確保を目指す。

<議論>

・ブルーカーボンの調査について、現状の調査員1名体制での作業量はどの程度か。また、ブルーカーボンの取り組みを、学習コンテンツとしてツーリズムに組み込めないか。

→調査自体は少人数・短期間で可能だが、その後の「営業・販売力」が不足している。今後はそこを補う体制を考えたい。学習コンテンツ化については、調査関係の部分は難しいので、ユニッコリー事業にて検討したい。

（2）一般社団法人U m i d a sについて（事務局清水から進捗）

実績：視察・取材対応16件（約70名）、体験・モニターツアー17件（約330名参加）など、情報発信と受入体制構築に注力。

食育ツアー：3泊4日の「四国・愛南の海の恵みを満喫！いただきますの裏側を学ぶ 親子食育モニターツアー」を実施。食のありがたさを学ぶ場として高い満足度を得た一方、食事の提供料の調整などが今後の改善点として挙げられた。

人材育成：ボランティアガイドの育成プログラムを構築。次年度より試験的な運用を開始予定。

<議論>

・モニターツアーで得られたアンケートデータは、どの程度まで公開・共有されるのか。

→個人情報保護やモニターツアーの観点からデータの一般公表は避けているが、町内事業者が「これなら自分たちもできる」と協力しやすくなるよう、まとめた形での周知は積極的に行いたい。

（3）愛南町きらめき海道プロジェクト（案）について

コンセプト：これまでに3回開催した運営委員会にてスタンプラリーに代わる施策について議論を行った。愛南町全域の季節ごとの観光資源（篠山アケボノツツジ、シュノーケルリング、ジャンボプール、磯釣り等）をカレンダー形式で可視化し、周遊（回遊）を促進する。

<議論>

・「きらめき海道プロジェクト」が、観光協会が既に行っているイベント周知などのPR活動とどう違うのか。内容が重複していないか。

→観光協会の情報は単発のイベント周知に留まっている。本プロジェクトは、海業を軸とした

「周遊（回遊）の動線」をストーリーとして提供する点が異なる。
→既存のPRは、「もの」、「場所」等の「点」での説明だが、本プロジェクトは来訪者の動機付けとなる「線（ストーリー）」を作るもの。盛旬満喫スタンプラリーとも相乗効果があると考え
る。
・「きらめき海道プロジェクト」の資料写真について、一般的なシュノーケルリングよりも特別感が出る愛南町独自の「シーウォーカー」の方が良いのではないか。
→写真の選定については、「シーウォーカー」は鹿島で体験でき、様々なパンフレット、HP等で紹介されているが、あまりピックアップされていないシュノーケルリングを選定した。また、鹿島だけでなく須ノ川もイメージできるようにした。

3. その他

- ・愛南町 SDGs 水産環境未来都市構想について
見直し案を作成しており、パブリックコメント等を通じ意見を反映させていく。
- ・機構改革について
令和8年4月1日より、水産課の維持管理業務は建設課へ移管され、海業推進室は海業振興課として力強く再スタートを切る。

以上